

「豊かな暮らしを幸せをずっと未来へ」

横手市立横手南中学校 小西 来夏

学校までのいつもの道を自転車で漕ぐ。国道沿いには色鮮やかな花壇があり、雪解けの後にきれいに舗装された道路に引かれた白線が美しい。「今日も頑張ろう」と、清々しくて幸せな気持ちになる。高速道路に繋がるバイパス道路を横断するために、歩行者と自転車専用の地下道を通って、学校へ急ぐ。学校に着く頃には汗だくだが、教室はエアコンが効いていてとても心地良い。教科書を開いて授業を受ける。私の日常だ。

小学六年生の時と中学三年生になった今年、租税教室があった。小学生の時は税についてあまり考えたことがなかったが、今年の租税教室の後、国の税金がどのように使われているのか気になって調べてみた。令和六年度の国の税金の総額は約七十五兆円。そのうち、道路の整備や工事などの公共事業関係費は約六兆円、文教及び科学振興費は約五兆円も使われていた。気になった事をさらに調べてみると、義務教育九年と高校三年の十二年間で、一人当たり一二四〇万円の税金が使われている事がわかった。この金額にとっても驚いた。

税について調べている時、「生まれた時から税金のお世話になっていたんだね！」と母に言うのと、「あなたがお腹にいた時の妊婦健診にも税金が使われているんだよ。」と母が言った。私たち日本人は生まれる前から税金に支えられているのだ。

きれいで、安心して通ることができる通学路。快適な環境で勉強ができる楽しい学校生活。病院にかかっても高校卒業までその費用を負担してくれる横手市の医療費助成制度。私の日常の幸せは、会ったこともない日本中の皆さんが納めた尊い税金の恩恵を受けていることを知り、日本中の一人ひとりに「ありがとう」と言いたい気持ちになった。

今はまだ買い物をした時に支払う消費税しか払ったことのない中学生の私だが、税についての知識を少し得た今、思うことがある。

「税金」に対して、「国に取られるお金」とか「義務だから仕方ないけど払うお金」など、ネガティブなイメージをもつ人も少なくないと思う。しかし、少子高齢化が進み、税を納める人は減少するのに福祉や医療に使う税金はますます増えていくのは誰にでも想像がつく。だからこそ、みんなが納めた尊い税金がどこに配分され何に使うのか、適切に使われているのか、日本の将来を支える私たち中学生は税金について学びを深め正しい知識を身につけることが求められるのではないだろうか。

七一〇年の律令制「租調庸」から日本の税制が始まり、時代によってかたちは変えど、一三〇〇年以上経った今も納税することは続いている。納税によって社会基盤を支え、税金の正しい使いみちを判断できる広い視野を持った大人になって、今私を感じている豊かな暮らしと幸せをずっと未来に繋げていきたいと思っている。